

# 木製レーキ（トンボ）製作手順

野球に限らず、グラウンドを使用するスポーツにとって、グラウンドを整備するために『レーキ（トンボ）』は必要不可欠な物です。

鉄製は丈夫ですが、重量が重いために細かい作業に向いていないばかりか、中学生には少々扱いにくいです。

アルミ製は重量は軽くて錆びる心配もなく、中学生でも扱いやすいですが、とても高価で、6,000円／台程度するために、限られた予算のなかでは大量に購入することが出来ません。

最後に木製ですが、重量は軽く細かい作業にも適しています。

既製品であれば3,000円／台程度でアルミ製より安価ですが、耐久性能がそれほど高い訳でもないので、2～3年で破損してしまう可能性が非常に高いです。

・・・と、ということで『手作り』の手順をご紹介します。

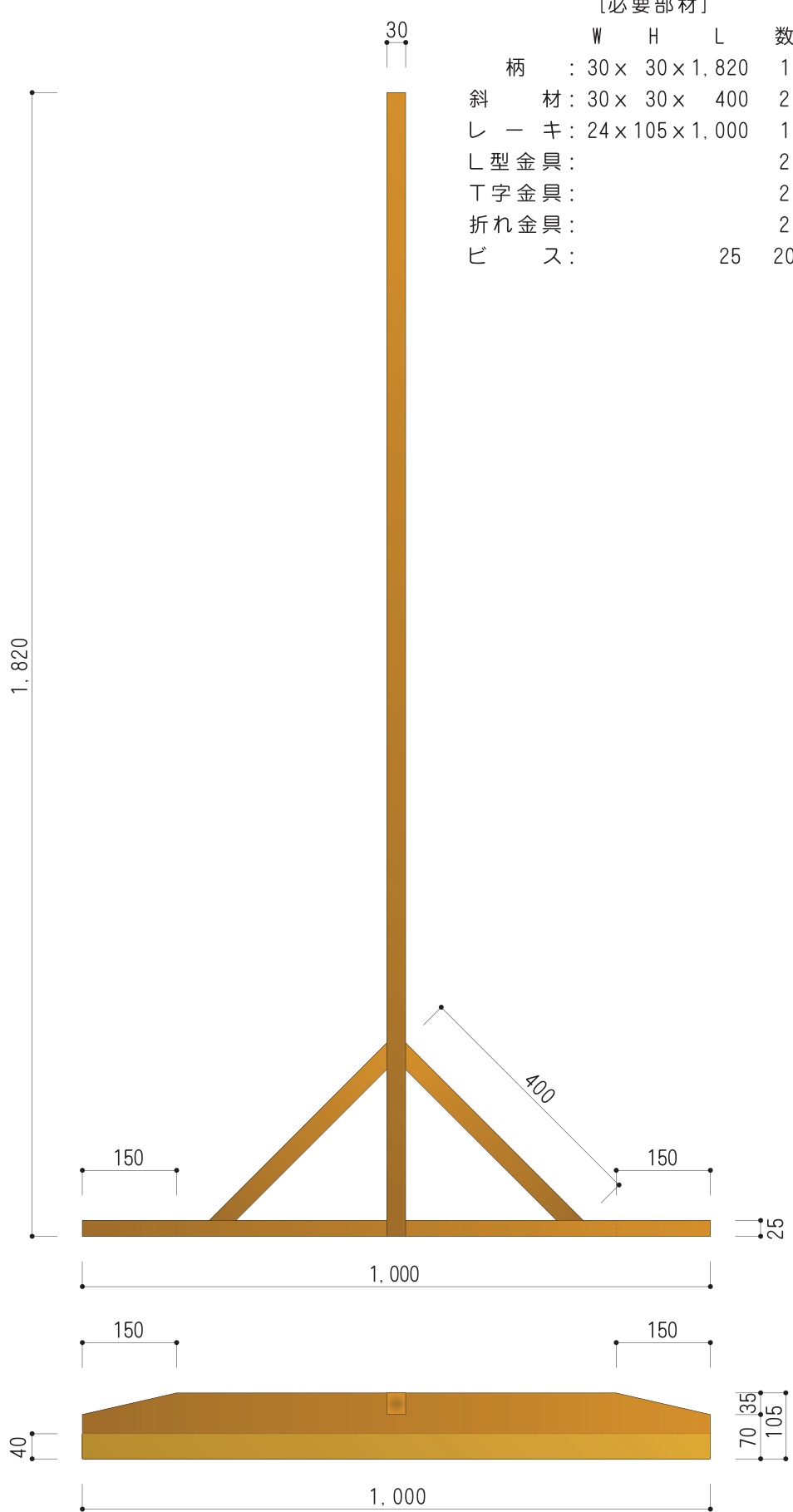
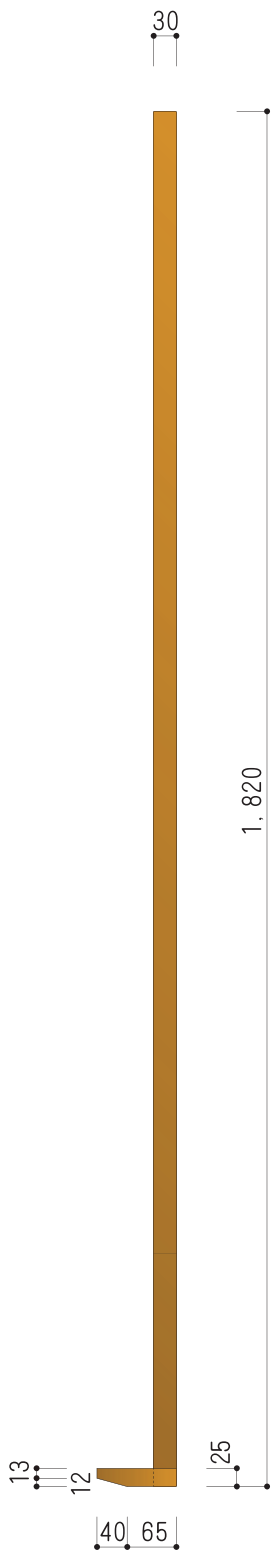
必要な部材、工具等、初めての方でも理解出来るよう、出来るだけ細かく説明していきたいと思っておりますので、是非、ご参考にされてみて下さい。

尚、紹介している材寸や材料グレードは、ほんの一例です。

使い方に合った寸法やグレードを変えることが出来るのも、『手作り』のメリットとも言えます。非常に簡単に製作可能ですが、くれぐれも事故や怪我のないよう充分注意されて下さい。



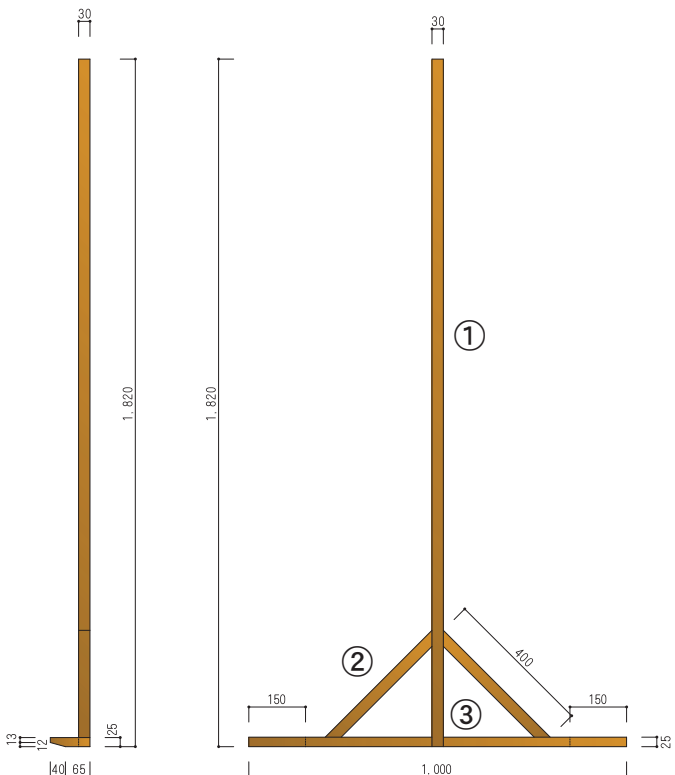
# ●完成姿図と必要部材



[必要部材]

	W	H	L	数	
柄	30	30	1,820	1	【杉材】
斜材	30	30	400	2	//
レーキ	24	105	1,000	1	//
L型金具				2	
T字金具				2	
折れ金具				2	
ビス				25	20



製作手順	写真等
<p>まずは、準備するものとして材料ですが、防腐剤注入材が望ましいですが、今回は普通の『スギ』を使用しました。</p> <p>①柄の部分 [mm] 36 × 36 × 2,000 @ 141円</p> <p>②支持部分 [mm] 36 × 36 × 1,000 @ 68円</p> <p>③土に当たる部分 [mm] 24 × 105 × 1,000 @ 183円</p>	

購入部材と完成図の材寸が違うのは、4面カンナ掛けをしたからです。中学生の体格では、36mm角では若干太いうえに表面も汚いので、4面をカンナ掛けで整えます。その削り代として少し太めの材料を選びます。ショップによっては、4面加工済みのものもありますし、SPF材なら仕上げをする必要もありません。

SPF材とは、北米仕様の外材で一般的に『ツーバイフォー』に使われる材料です。『ツーバイフォー』とは『2インチ×4インチ』の意味で、この寸法が基本材寸となり、今回の場合は『38×38×1,820』という寸法の材料が近いようです。因みにSPF材の場合の各々の単価は下記のとおりです。

- ①柄の部分 [mm]
- ②支持部分 [mm]  
38 × 38 × 1,820  
@ 245円
- ③土に当たる部分 [mm]  
25 × 140 × 1,820  
@ 598円

